

◆ 巻頭に寄せて

医療においては、医療従事者と患者様の間に、医療に関する知識量や理解度の差、いわゆる「情報の非対称性」が存在します。当然ながら医療従事者の方が患者様に比べて圧倒的に知識があり、理解度も高いことから、治療を受ける患者様の自己決定権が尊重されにくい（と同時に、医療従事者にとっても尊重しにくい）という問題があります。そのため、かつての医療現場では患者様にとって人生の重要なイベントとも言える大きな手術ですら、「先生にお任せします。」と言われることが少なくありませんでした。

今ではそういった光景は昔話となり、各医療機関における診療実績の公開や、マスメディアによる医療ドラマや健康をテーマにした情報番組の提供、インターネットの普及等により、以前に比べると医療現場の状況については、ある程度社会に認知されるようになってきました。

このように、医療に関する情報公開が進んだことで、多くの患者様の中で主体的に医療に関わろうとする意識が喚起されたと感じています。また、そのこと自体は医療従事者にとっても、患者様との信頼関係を築く上でとても喜ばしいことだと思えます。しかしながら、その一方では医療情報の流れのスピードやその量に患者様の理解が十分に追いつかず、誤解に基づく過剰な要求に対応せざるを得なくなるなど、医療現場に新たな悩みをもたらしています。

本書は、主に医療従事者や医療機関関係者を読者対象として、そのような「情報の非対称性」がもたらす医療現場での悩みについて、医療に関する法律問題に詳しい川西譲・川西絵理弁護士が、具体的な事例を取り上げて説明してくださっています。

医療が専門職により提供され、また常に進歩していく産業である以

巻頭に寄せて

上，医療従事者と患者様の間における「情報の非対称性」の問題は解決されることがないと言っても過言ではありません。このような問題に関して，本書を通じて医療従事者のみなさんの医療に対する姿勢や想いが，正しく患者様に届くことを祈念いたします。

2017年6月

兵庫医科大学名誉教授
医療法人財団神戸海星病院 名誉理事長
立石 博臣